

図画工作科学学習指導案

第6学年

I 題 材 線から生まれるデザイン

II 考 察

1 題材観

(1) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

感じたこと、想像したこと、見たことを工作に表す。

【A表現(2)】

(2) 培われる主な資質・能力

- ・自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする態度
- ・感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりする力。
- ・感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫する力。
- ・親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴を捉えたり、よさや美しさを感じ取ったりする力

(3) 題材の価値

本題材は、一本の針金を曲げて意図した形をつくり、金槌で叩いて形を固定することで、生活で使うことのできるクリップをつくる学習である。その価値は以下のとおりである。

子どもたちは、様々なモノに囲まれて生活している。特に文房具は日常的に子どもたちが手にする道具であり、多種多様な文房具の中から自分の好みの色や形等で選んでいる。また、漫画などの線の表現に対しても親しみがある。このことから、一本の針金を使って、生活で使うことのできるクリップをつくることで、線の表現を意識しながら自分の身の回りを楽しくしたり生活の幅を広げたりすることができる考えた。

針金は、金属の線材であり、加工が難しいことが多い金属材の中では小学生から扱うことができる数少ない素材である。また、金属材は、できあがった作品に一定の強度があり、その質感を楽しみながら、針金を曲げたり、叩いたりして自分のつくりたいクリップをつくる活動に取り組むことができる。

特に、アルミ針金は、簡単に曲げたり、切ったりすることができ、自在に形を変えることができる可塑性の高い素材である。そのため、自分のイメージに合わせて、容易に一本の線として一筆書きの様に自由に形をつくりながら、機能やデザインを考えることができる。

また、針金を曲げてつくった形を金槌で叩くことで、鍛造の要領で形を固定することができる。そのため、ペンチなどを使って針金を曲げて一本の線から自由に形をつくることや、金槌で叩いた際の金属の質感の変化を感じながら、自分で表したい形を決定することを意識して、できたものを見直し、自分のつくりたいものを工夫してつくることのできる。

さらに、実際に紙を挟むことで、その機能を確認めながら、大きさや形、使いやすさなどの観点に気づきやすく、暮らしの中のデザインのよさや美しさを感じ取ることができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、美術家中学校1年での、使うなどの目的や機能を考えデザインや工芸などに表現する活動を通して用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現する学習へと発展していく。

(5) 共通事項との関連 ※指導と評価の計画参照

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「ねん土の板から ー立体に表すー」において、板状にした粘土の組合せを工夫し、用具などを適切に扱ったり、どべで丈夫に接着したりして成形し、つくりたい形を粘土でつくる学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ・子どもたちは、たたら板と丸棒を使って粘土の板をつくり、焼き物で作品をつくることに興味をもち、粘土の板を組み合わせて生活に使えるものをつくる活動に取り組むことができている。このような子どもたちが、一本の線を基にして、金属の質感を感じながら、実際に使うことのできるクリップをつくることのできるように、一本のアルミ針金を曲げて、叩くことで質感を変えてクリップをつくる活動を設定する。
- ・子どもたちは、つくりたいものに合わせて、粘土のいたの切り方や曲げ方、形の組合せ方を考え、イメージしたもの的大まかな形に近付けることができている。このような子どもたちが、一本の線から形をつくる面白さに気づき、イメージを膨らませることができるよう、ペンで一筆書きをして、つくりたいものをアイデアスケッチに表す活動を設定する。
- ・子どもたちは、自分のつくりたいものに合わせて、手や粘土べら、身近な材料の扱い方を工夫したり、どべを使って丈夫に接着したりすることができている。このような子どもたちが、自分のつくりたいものに合わせて、自分で表したい形を決定することを意識して、できたものを見直し、自分のつくりたいものに向かって試行錯誤することができるよう、容易に形をつくることのできる一方で、できた形を固定することのできるアルミ針金を教材として設定する。
- ・子どもたちは、自分や友達の作品の、粘土の質感や粘土による表現、使い方のよさを味わい、形や飾りのつくり方の工夫に気付くことができている。このような子どもたちが、自分や友達の作品の、金属の質感や線による表現、使い方のよさを味わい、形や機能のよさや美しさについて気付くことができるよう、できた作品で名札を挟み展示する場を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- ねらい 一本の針金を使って、目的や用途などを考え、構造やつくり方を工夫してクリップをつくる。
- 準備 アルミ針金 ラジオペンチ 金床 金槌 学習プリント フェルトペン
- 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
1 本時の活動について知る。 ・きちんと紙が挟める魚の形のクリップをつくりたいな。	○学習の見通しがもてるよう、前時に描いたアイデアスケッチと、前時につくったクリップを紹介し、デザインの意図について問いかける。 ○自分のつくりつくりたいものに合わせて、試行
2 一本の針金を加工して、自分のつくり	

たいクリップをつくる

- ・細かな形をつくりたいから細い針金を使ってみよう。
- ・うまく曲げられないな。細かく曲げるにはどうしたらよいのかな。
- ・ペンチの先を使って曲げている友達がいるな。私もペンチの先を使ってみよう
- ・アイデア通りに曲げられたから、叩いてみよう。
- ・細い針金で小さな魚のクリップをつくっている友達がいるな。私のは、少し大きすぎるかな。
- ・叩いて、クリップができたけど、挟む力が弱い感じだな。もう少し小さいデザインにしたらよさそうだな。
- ・小さすぎると形がつくりにくいな。できたけど、線がグニャグニャしてる感じがするな。きちんと紙が挟めているクリップをつくっている友達に聞いてみよう。
- ・基本の形を生かした友達の作品は、きちんと紙を挟めているな。
- ・挟むところを基本の形を基にして、魚の体の模様を渦にしたアイデアスケッチを描こう。
- ・この大きさなら針金の太さを太くした方がよさそうだな。
- ・友達の作品を見たり、相談したら、自分のつくりたかったクリップに近づいたよ。もっと、工夫してみよう。

3 できた作品を友達と紹介し合い、本時の活動を振り返る。

- ・相談に乗ってくれた友達に作品を見せたら、かわいいねと言ってくれたよ。友達の作品も前より細かな曲げ方がきれいだな。家でも、プリントを挟むのに使ってみよう。

錯誤しながらつくることのできるよう、加工のし易いアルミ針金を用意し、修正点や変更点をアイデアスケッチにかき込みながら形を調整するよう促す。

☆自分で形を決定したことを意識できるよう、叩くと形が固定化される針金を学習材として設定し、できたクリップの形や機能を確認めるよう促す。

☆自然に友達と交流し、自分や友達のつくった形や作品、発言などを参考にして、自らの表現を見直してデザインを修正したり、変更したりすることができるよう、活動の段階毎の場を設定し、互いのつくり方や作品を見合うよう促す。

○針金の細かな加工の仕方を試すことができるよう、形を微調整している子どもにペンチの使い方を演示する。

○線の重なりと挟む機能の関係を意識することができるよう、デザインを大幅に変更している子どもに、基本の形の参考作品を配付し、触りながら線の重なりを確認めるよう促す。

○自分のつくりたいものに合わせて試行錯誤を繰り返すことができるよう、自分の意図に合わせて、デザインを修正したり、変更したりしている子どもを賞賛する。

評価項目

自分のつくりたいクリップに合うように、材料を選んだり、曲げ方を試している。

<行動・発言・作品(3)>

○形や機能のよさや工夫について気付くことができるよう、できた作品で名札を挟み展示する場を設定し、表現の意図を問いかける。

○自分でつくったクリップを生活の中で使う楽しさに気付くことができるよう、アイデアスケッチや学習プリントを作品で挟んで提出するよう促す。

指導と評価の計画（全4時間）

目標	一本の針金を曲げたり、叩いたりして、自分のつくりたいクリップをつくる。			
評価 規準	(1) 生活の中で使うクリップを一本の針金を使って、試行錯誤しながらつくることに取り組もうとしている。 (2) 生活の中で使えるように、目的や用途などからつくりたいクリップを思い付き、一筆書きでアイデアスケッチをかいてデザインを考えている。 (3) つくりたいものに合うように、針金の太さや色を選んだり、曲げ方を工夫して試している。 (4) 自分や友達の作品のよいところについて話し合い、よさや美しさを感じ取っている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）	評価項目＜評価方法（観点）＞
であ う ひろ げる ・あ らわ す	1	○生活の中で使うことができるように、基本となるデザインについて知り、目的や用途を考えて、つくりたいものを一筆書きのアイデアスケッチに表す。	○実際に使うことのできるクリップをつくることのできるように、基本となる形を、一本のアルミ針金を曲げて、叩き質感を変えてクリップをつくる試しの活動を設定する。 ○一本の線から形をつくる面白さに気付き、イメージを膨らませることができるよう、試しの活動を基に、ペンで一筆書きをして、つくりたいものをアイデアスケッチに表す活動を設定する。	◇アルミ針金を曲げたり、叩いたりする感触、針金の質感の変化を感じながら基本となる形をつくっている。 <行動・発言（1）> ◇基本の形を基に、自分のつくりたいクリップのデザインを一筆書きでアイデアスケッチに表している。 <行動・アイデアスケッチ（2）>
	2	○デザインや加工方法を試行錯誤しながら、一本の針金を使ってつくりたいクリップをつくる。	☆自分のつくりたいものに合わせて、自分で表したい形を決定することを意識して、試行錯誤することができるよう、容易に形をつくることのできる一方で、できた形を固定することのできるアルミ針金を数種類用意した材料コーナーを設定する。 ☆自分のつくりたいものに合わせて、自分や友達のつくった形や作品、発言などを参考にして、自らの表現を見直してデザインを修正したり、変更したりすることができるよう、活動の段階毎の場を設定する。	◇自分のつくりたいクリップに合うように、材料を選んだり、曲げ方を試している。 <行動・発言・作品（3）>
ふり かえ る	1	○できた作品を友達と紹介し合い、実際に使った感想を話し合う。	○自分や友達の作品の、金属の質感や線による表現、形や機能のよさや工夫について気付くことができるよう、できた作品で名札を挟み展示する場を設定する。	◇自分や友達の作品を見たり、触ったりして、使った感じを確かめながら、よさや美しさについて話したり、記述したりしている。 <発言・学習プリント（4）>
共通事項	目的や用途を考えながら、生活で使える自分のつくりたいクリップをつくる活動を通して、形や色などの造形的な特徴を捉えて、自分なりのイメージをもつ。			